MIC 情報通信 vol.34

（2011年10月発行）

Intertek MOODY INTERNATIONAL

発行

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社
大阪事務所

〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14
住友生命新大阪北ビル13F
Tel:06-6150-0571 Fax:06-6150-0575

◇ MIC情報通信のバックナンバーは弊社ホームページ（http://www.moodygroup.co.jp）でご覧頂けます。

CONTENTS

1 審査機関の経営資源

2 特集
3 「プロセスアプローチによる廃棄物管理手順書」

4 MICニュース
- 認証サービス拡充のお知らせ
- 認定機関による定期審査
- お客様交流会 50回の節目に
- Q&A

5 審査の現場から
- お客様紹介（ヨネックス株式会社）
- 連載よみもの「審査員の心理」（環境編）

6 連載よみもの
- MICリレーエッセイ「東日本大震災に思う」（審査員 桜井 洋）
- 環境よみもの「環境とISO14001」

7 お客様からのお便り
- 「世界に通用する企業を目指して」（三新化学工業株式会社）
- 「CSR経営による社会貢献活動」（株式会社筑波銀行）

8 研修コースのご案内
- ちょっといっぷく
- コースのご紹介/受講生からのお便り

審査機関の経営資源

審査員室 室長 成毛 秀雄

審査機関の経営資源とは何かといえば、まず筆頭にくるのが人的資源ということであり、審査員ということになります。私どもMICでは審査員全般の管理、人事、採用、契約、教育訓練を独立した業務として行う機能をもつ審査員室という部署を設けています。

審査機関という組織で業務を行う人間にとって大切なことは、認証制度の中の一員であるという自覚をもつことです。認証制度の中での活動は規格、規範、認定機関からの指針などに従って行動します。しかし、ただそれだけではお客様に対し、なんらかの価値を提供する審査を目指すことはできません。認証制度の中においてもMICの方針に基づきお客様の満足の向上を目指すことは私どもの職務であると考えております。

審査員は東京と大阪でそれぞれ年に3から4回一堂に集まって教育訓練を行っております。審査員にどのようなことをインプットするのかということはきわめて重要なことです。最終的には審査機関としての理念、方針、文化、また、その時代の動き、顧客からのフィードバックなどそれらを総合したものが審査員教育に必要なインプットといえます。どのようなことを審査員教育のインプットとするのかが、その審査機関全体の審査活動、ひいてはその審査機関のアイデンティティに影響を与えます。審査員教育のみならず、MICでは事務局、営業部員、審査員との積極的なコミュニケーションが奨励され、このことが情報の迅速な伝播につながりお客様に対するサービスの向上に貢献しております。

特集

プロセスアプローチによる廃棄物管理手順書

ISO9000シリーズの2000年版より取り入れられたプロセスアプローチは、品質マネジメントシステム8原則の一つに挙げられる基本的な概念です。今回、その考え方をISO14001に応用した事例をご紹介致します。システム活性化への新たな視点や見直しに繋げて頂ければ幸いです。

（編集部）

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社　環境主任審査員　副田 武夫

はじめに

ISO9001ではプロセスアプローチが推奨されていますが、ISO14001においてもそれは可能です。本記事では、廃棄物管理プロセスをプロセスアプローチで構築した例を紹介したいと思います。

手順書作成にあたっての考慮点

手順書を作成するに当たり最初に考えなくてはならないことは、第一にその手順書の目的と範囲です。この例で紹介する廃棄物手順書の目的は、製造工程と事務所から排出された廃棄物を法的に適正処理することです。廃棄物の発生そのものを減らすことは製造プロセスや購買プロセスの手順書の範囲です。したがって、記載範囲も排出された廃棄物の一時保管～業者への排出～委託処分～処分結果の当局への報告までです。

第二には、手順書に盛り込むべきインプット情報を明確にすることです。廃棄物に関しては廃棄物処理法や自治体の条例の適用を受けます。したがって、廃棄物に関する法的要求事項を参照しなくてはなりません。また、組織が、廃棄物のリサイクル化を環境目標としていれば、それを実現する手順を含めねばなりません。

廃棄物管理手順書の例

図1は、廃棄物管理全体を示したプロセスチャートです。内容は大きく廃棄物委託業者の評価・選定、廃棄物の処分、マニフェストの管理の3つを含みます。

【図1】

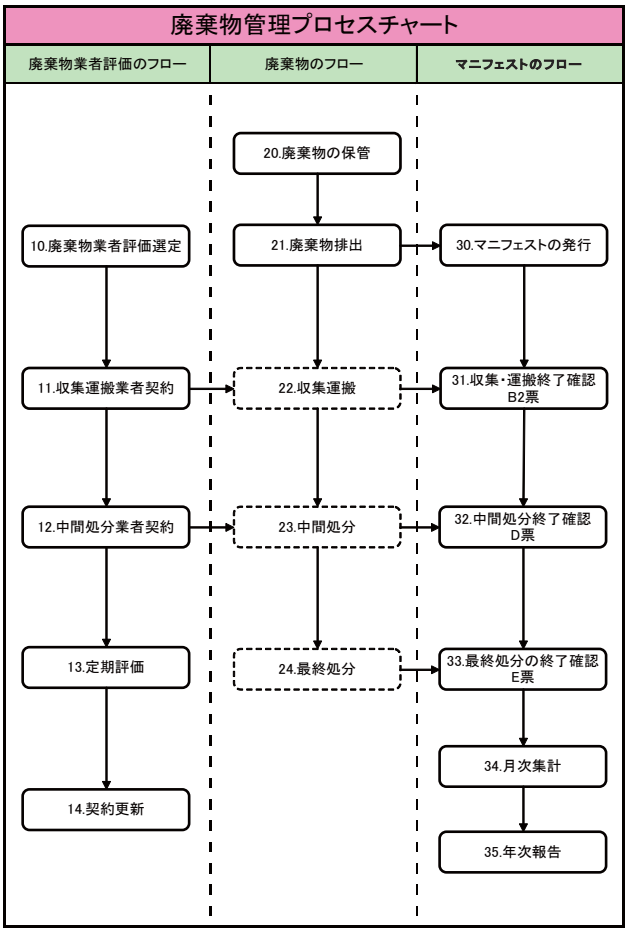


図2は、図1のプロセスチャートに対応したより詳細な手順です。各活動の責任、管理基準、関連文書・記録などが明示されています。これにより、確実な順法処分が期待できるとともに、業務手順が明確になり、訓練や引き継ぎも短時間に済ませることができます。

図3は、組織の廃棄物分別基準書であり、個別廃棄物ごとの保管容器、保管場所、マニフェストの要否、委託業者名を示しています。これは、ISO14001の4.4.6運用管理で要求されている運用基準の一部となります。

以上のように、プロセスアプローチに沿った手順書を作成することにより、廃棄物処理の全体の流れから個別廃棄物の処理基準までをスッキリと表現することができます。手順書の開発についてはさまざまなアプローチがありますが、ここで紹介したプロセスアプローチが何らかの参考になれば幸いです。

【図2】

廃棄物管理プロセス計画書								
経営者の責任及び資源の管理								
目的	廃棄物のリサイクルの促進を図るとともに廃棄物の処分を順法的に行う。							E4.3.3
適用	当社から発生する有害物及び無価物の廃棄物の収集・運搬及び処分に関する活動							4.1
目標	廃棄物の適正処理、廃棄物処分委託コストの削減							4.3.3
責任	部門	生産部		プロセスオーナー		管理責任者		4.4.1
資源	知識・技能・力量	特別産業廃棄物管理責任者、マニフェスト伝票運用知識、廃棄物の性状						4.4.2
	インフラ	廃棄物保管容器及び保管場所						4.4.1
プロセスの実施手順及び監視・測定								
No.	活動	責任者	時期	管理項目	INPUT	OUTPUT	文書・記録	ISO
業者評価フロー								
10	廃棄物業者選定	管理者	取引前	現状/順法	業者情報	選定結果	現地確認記録	4.4.6
11	収集運搬業契約	事務局	選定後	所在地	契約書	契約締結	契約書	4.3.2
12	中間処分業契約	事務局	選定後	許可品目	契約書	契約締結	契約書	4.3.2
13	定期評価	管理者	毎年	現状/順法	現地確認	評価結果	定期評価記録	4.4.6
14	契約更新	事務局	毎年	許可/期限	定期評価	更新完了	免許コピー	4.4.6
廃棄物の処理フロー								
20	廃棄物の保管	課長	堆積時	状態/分別・量	廃棄物発生	適正保管	分別基準書	4.4.6
21	廃棄物排出	課長	堆積時	滞積量/量	廃棄物保管	廃棄物排出	分別基準書	4.4.6
マニフェストの管理フロー								
30	マニフェスト発行	課長	排出時	単位/種類毎	マニフェスト	A票の保管	管理一覧表	4.3.2
以下省略								

【図3】

廃棄物分別基準書										
廃棄物分類		廃棄物名称	保管容器	保管場所	マニフェスト	収集業者	免許期限	処分業者	免許期限	処理方法
産業廃棄物	汚泥	脱水汚泥	フレコン	汚泥置場	要		**	A社	**	固型化
	廃油(特管)	廃トリクロ	ドラム缶	トリクロ置場	要	B社	**	K社	**	蒸留
	廃酸(特管)	強酸廃液	ライン内の槽	バキューム	要	C社	**	L社	**	混練中和
	廃酸	酸性廃液	ライン内の槽	バキューム	要	D社	**	M社	**	混練中和
	廃アルカリ(特管)	廃液	ライン内の槽	バキューム	要	E社	**	N社	**	中和
	PCB	コンデンサー	受け皿	キュービクル内	要	F社	**	O社	**	JESCO
資源ごみ	金属屑	廃リード線	専用コンテナ	産廃置場	否	G社	－	P社	－	再資源
	金属屑	不良部品	専用コンテナ	産廃置場	否	H社	－	Q社	－	再資源
一般廃棄物	可燃廃棄物	廃ろ布	ビニール袋	産廃置場	否	I社	－	R社	－	再資源
	以下省略									

副田 武夫
(そえだ たけお)
MIC環境主任審査員。金属製品、経営コンサルタント専門。㈱デンソー、㈳中部産業連盟を経て現職。
愛知県春日井市在住。

グループ統合に伴い、認証サービスが拡充

前号にてご報告させて頂きました通り、インターテックグループとの新体制への手続きが完了し、MICでは両グループの規模拡大の効果を最大限に活かしたお客様への更なるサービス向上に取り組んでおります。それに伴い、ご提供できるサービス分野が拡充しましたので、主要品目をご案内致します。

システム認証サービスとして、以下の認証が可能となりました。

- AS9100（航空宇宙産業向け品質マネジメントシステム）
- ISO13485（医療機器向け品質マネジメントシステム）
- GLOBAL GAP（農場管理規範）
  認証対象品目として、従来の農作物に加え水産養殖が追加。
- PEFC（森林認証）及びCoC（トレーサビリティ）
- PAL（日本の薬事法に基づいた認証）

ご興味のある認証品目がございましたら、東京営業部までお気軽にお問合せください。

統合を機に、より一層お客様の期待に応えられるサービスの提供に取り組んでまいりますのでよろしくお願い致します。

認定機関による定期審査

MICはUKAS（英国認定機関）等より認定を受けてISOの審査・認証業務を開始し、2008年からはさらにJAB（日本適合性認定協会）認定も受けています。認証審査と同様、認証機関も活動を実施するにあたって、その能力、公平性、組織の安定性等の規格要求事項への適合について認定機関より審査を受けて認定・登録されています。毎年定期的に認定機関の審査を受けており、本年度の定期審査も無事終わりました。

UKAS、JABなどの認定機関を認定しているのがIAF（国際認定機関フォーラム）で、技術的レベルの整合や国際相互承認協定の締結に向け活動している国際的組織です。認定機関は原則1国1機関とされ、イギリスはUKAS、アメリカはANAB、日本はJABなどになります。

認証機関は認定機関によって、ISO17021（適合性の評価ーマネジメントシステムの監査並びに認証を提供する機関への要求事項）に基づく定期審査が行われ、実地審査中の審査員や認証業務を行う事務所スタッフが対象になります。今年も複数の審査現場で審査が行われ、審査先の皆様にはご協力を頂き、ありがとうございました。審査現場は認定機関より選択されますので、皆様の審査が選択されることになりました際には、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

お客様交流会50回の節目に

MICでは、お客様との交流、またお客様同士の情報交換の場としてご利用頂けることを目的に、東京本社をはじめ、各拠点でお客様交流会を開催しております。大阪事務所では関西地区のお客様を対象に主に講演形式にて開催しており、本年8月開催会で50回の節目を迎えました。2004年の第一回から延べ1200名を超えるお客様にお集まり頂き、現在ではほぼ毎月開催させて頂くまでに定着しました。これまでご参加頂きました皆様、どうもありがとうございました。

交流会では、本社審査部や審査員によるセミナーの他、お客様組織に事例紹介として自社の認証取得についてお話し頂いたり、また質疑応答やディスカッションを中心にした内容など、様々な試みで関心の高いテーマを多く取り入れるよう心がけております。

今後も内容の充実化を図りながら、皆様との交流を深めてまいりたいと思っておりますので、開催の折にはお気軽にお立ち寄りください。今後ともよろしくお願い致します。

Q&A

Q 知り合いの会社が審査機関の変更を検討しており、MICについて聞かれました。審査機関選びの判断材料として、どのような認証先があるのか気になっているようです。このような情報を教えてもらうことはできるのでしょうか？

Answer

弊社ホームページでは、お客様情報を公開しております。トップページの「認証登録企業」または「ISO認証登録企業情報」から進んで頂くと、「認証登録企業データベース」の画面になります。データベースでは、ホームページでの公開をご了承頂いたお客様を、ISO規格、都道府県別に検索頂けます。各会社の認証範囲やホームページアドレスなどが掲載されています。

また、年4回発行しているこの「MIC情報通信」でもお客様をご紹介しております。これまでご紹介させて頂いたお客様は、北は稚内、網走から、南は五島列島、宮古島まで、全国各地、100組織以上になります。バックナンバーは、ホームページにアップされておりますので、こちらも是非ご参照ください。

審査機関は多数あり、どこを選んでよいのかわからない、また逆にどこも同じとの声も聞きます。UKAS、JABなどの認定機関より認定を受けた審査機関であれば、IAF加盟国による国際相互承認協定によりどの審査機関も同等と認知されます。その点では基本的に同じと言えますが、厳密には認定範囲は産業分類ごとに行われ各機関による業種の専門性や審査方針の違いや特徴があります。MICでは、常にお客様の立場で考え、企業価値向上に向けた効果ある審査を心がけており、システム改善につながる審査を基本に永遠のビジネスパートナーとして信頼頂けるよう日々努めております。直接ご説明させて頂くこともできますので、ご希望がありましたらお気軽にご用命ください。

尚、ホームページ掲載希望のご連絡を頂いているお客様で、掲載されていない場合がありましたら、弊社までご連絡ください。

お客様紹介

審査の現場から

ヨネックス株式会社 新潟生産本部　様

（ISO9001：2008、ISO14001：2004 認証登録）

MIC審査員　美濃 英雄　*Hideo Mino*

ヨネックス株式会社 新潟生産本部様は、2001年に他審査機関にてISO14001の認証を取得、2004年にMICに審査機関を変更されました。さらに2006年にはISO9001も取得されています。登録事業所は、新潟生産本部第2工場、第3工場、長岡工場で、テニス・ソフトテニス・バドミントンラケットをはじめ、ゴルフクラブ、スノーボードの設計・開発・製造を行っておられます。

ヨネックス様では、EMS導入以来、製造部門での廃棄物の総量削減、リサイクルなどの省資源化、大気汚染、水質汚濁の原因となる有害物質のゼロレベル化、騒音、悪臭の削減に取り組まれています。また、製品開発部門では梱包材を含め使用材料、製造方法など環境への影響を配慮し、さらにあらゆる部門で使用電気量、水使用量の削減、ペーパーレス化など、限りのある資源とエネルギーを大切にした地球環境に優しい企業活動を推進されています。

品質方針には「世界ナンバーワンへの挑戦」の言葉を取り入れられ、工場改革運動などの改善活動を通じて、製品性能向上とコスト削減に向けた運用を展開されています。審査では毎回、「指摘事項をどんどん出して下さい」との要望があります。前回の審査でも細かなものも含め多くの観察/改善事項を出しましたが、その対応にびっしり書かれたレポートを提出頂き、システムにも全て反映させるなど、改善への意識の高さが伺えます。現場審査では、世界品質の製品を生み出している高い技術に感心しました。

昨年、同工場で開発・製造されたバドミントンラケット「アークセイバーZ-スラッシュ」を使用し、タン・ブンホン選手（マレーシア）によって打球されたスマッシュの初速・時速421kmが、「バドミントンの最速打球」としてギネス世界記録™に認定（2010年2月）されました。その時の選手のサイン入りポスターを大事に飾って「誇り」にしておられるところが印象的でした。

今後もシステム改善を通じた更なる業務展開に向けた同社の益々のご発展を期待します。

連載読み物

審査員の心理

第8回（環境編）

「審査の準備」

MIC 環境主任審査員　大村 敏夫　*Toshio Omura*

審査前の準備として、移動手段を確認して、交通機関や宿泊先の手配も審査員が行います。航空機で移動する場合には、早割などの割安チケットを確保するため、早めに手配します。

お客様への移動は、近ければ自宅から出かけることになりますが、早朝に家から移動する場合には、やや疲れることもあります。自宅から遠い場合は宿泊が必要になり、お客様に近いホテルを探します。交通の便利な駅に近い場所、料金が手頃、可能であればインターネットにLAN接続できる、さらにコンビニなどが近くにある、という条件でホテルを探します。このような条件でホテルを手配しますと、宿泊した当日、同じMICの審査員とホテルで出会うことが何度かありました。審査員が選びそうなホテルは、この条件で決まってしまうのでしょう。

審査は朝9時から開始することが多いのですが、8時45分頃に到着するように、交通手段や宿を出る時間を決めて、お客様とも電話で連絡をとります。場合によっては、駅やホテルにお迎えいただける場合もありますので、時間や場所なども確認します。複数名で審査チームを組む場合には、チームメンバーとも、合流する場所や時間をメールなどで確認します。

また、帰りの交通機関についても確認します。審査終了後、帰宅もしくは次の審査地に移動する列車を確認します。私の場合、特急列車は、なるべく自由席を利用して、時間に拘束されないようにします。審査が長引くことも想定し、複数の列車の時刻をメモします。遠方の審査では、審査が長引いた場合に移動が困難となる場合もありました。最終接続する電車の時間に間に合わず、当日になって宿泊先を探すこともありました。

プログラムを作成し、審査に必要な書類を取り揃えましたら、事前の準備はほぼ完了。事前に書類に目を通したり、追加調査などをして審査当日を迎えます。

MICリレーエッセイ㉜

審査員からのエッセイをお楽しみください。

From 宮城県仙台市
桜井 洋
（さくらい ようう）

PROFILE

専門分野	ISO9001・ISO14001 － 電気、機械
経歴	宮城日本電気株式会社、MIC審査員（現職）

「東日本大震災に思う」

まだ寒さの残る三月に発生した大地震は、見なれた景色を一変させました。半年以上が経過した今、仙台市の「震災廃棄物を10種類以上に分別し、リサイクル率50％を目指す取り組み」が、復興に向けた第一歩として期待されています。市が搬入場を整備・運営し、地元業者が搬入・分別・リサイクル・仮設焼却炉による焼却処分を管理する、市と地元業者が連携するマネジメントです。

近年、多くの組織で、様々なマニュアルを作成し備えています。しかし、震災後の報道で、「防災マニュアルは作成していたが…」「避難訓練は実施していたが…」「想定外だった」とのコメントを耳にしました。先人の経験をもとに作成した備えも、時の経過とともに実感が薄れ、役に立たない備えになっていたようです。私たちは、いつのころからか、自ら情報を収集し判断し行動することに疎かになっているようです。

組織の皆様は、日々、お客様の求めを満たし事業成果を得るためにマネジメントしています。この時、マニュアルにまとめられたマネジメントの手順を基礎としながらも、五感を働かせて情報を収集し、自らが最適と思うことを決断し、迅速に行動しているでしょうか。マネジメントシステムが、形式に囚われることなく、意図する成果を得るための使い勝手の良い道具として愛用されることを願っています。

連載「環境とISO14001」㉜

第32回「化学物質（2）」

MIC環境審査員顧問　郷古 宣昭　*Nobuaki Goko*

今回は化学物質の有害性について解説します。

1. 環境化学物質

環境に有害な影響をもたらすものと言うと、音、振動、光のようないわゆる迷惑物を除くとほとんど全ての分野で化学物質が関与しています。例えば次の例です。

①**温室効果ガス**：二酸化炭素、水蒸気、フロン、メタンなど分子内にエネルギーを貯えることができる物質です。フロンはその最たるもので二酸化炭素の千倍～1万倍の温室効果を有しています。

②**オゾン層破壊物質**：フロンに含まれる炭素－塩素結合が成層圏でオゾン分子を攻撃する反応を連鎖的に起こします。

③**酸性化**：工場や自動車から排出される化石燃料の排ガスに含まれるイオウ酸化物や窒素酸化物が酸性雨、土壌の酸性化、森林破壊をもたらします。

④**光化学スモッグ**：前述の窒素酸化物、工場やタンクから漏れた有機化合物、塗装工程で蒸散する溶剤が紫外線で励起されて生成する酸化性物質はヒトに有害です。

⑤水系、土壌系にあってヒトの健康や生物の生育に影響を与える**汚染物**。

2. ヒトに対する有害性

これらのうち、ヒトに有害な影響を与える性質を「毒性」と呼び吸入、経口、経皮の3つの暴露経路別に以下のように分類されます。

①死亡、②全身系（呼吸器、心臓血管、胃腸、血液、内分泌系、各種臓器で生じる有害影響）、③免疫系（*1）、④神経系、⑤生殖・発生系（受精、妊娠、分娩、子の成長に至る過程で生じる有害影響、⑥遺伝子毒性（*2）、⑦発がん性(*3)

*1：免疫機能の障害として起こるアレルギー誘発性については「感作性」とも呼ばれる。

*2：遺伝子毒性については「変異原性」とも呼ばれることもあり、発がん性や生殖毒性の可能性があるものとして管理される。

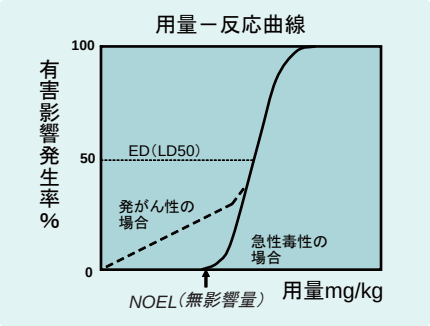
*3：発がん性については国際がん研究機関（IARC）によって以下のようにランク付けされている。

1　：発がん性がある
2A：おそらく（probably）発がん性がある
2B：発がん性があるかもしれない（possibly）
3　：発がん性については分類できない
4　：おそらく（probably）発がん性がない

1～4のランクは発がん性の強さのランクではなく、発がん性の証拠の確かさを示します。

3. 許容量の決定

化学物質が体内に取り込まれる化学物質の量とヒトや実験動物での有害な影響の発生率の関係を図に示します。



急性毒性の場合、有害な影響の発生ゼロになる点を求めることが出来ます。これを「無影響量（NOEL）」と呼び、それ以下の濃度であれば影響はありません。これに対して、発がん性が認められる場合、無影響量は存在しないので用量ゼロ（発生確率ゼロ）点に外挿して、許容可能な発生確率に対する用量を推定します。通常10万人に1人が生涯を通してがんにかかる確率で設定します。この場合の用量は蓄積量を意味します。

このように発がん性については特別の取扱いを行うわけですが、最近「アレルギー誘発性」など発がん性以外でも「無影響量は存在しない、微量でも蓄積量を下げるべきである」とする考え方も出ています。

次回はダイオキシンと環境ホルモンについて説明します。

お客さまからのお便り

世界に通用する企業を目指して

三新化学工業株式会社（ISO9001:2008、ISO14001:2004認証登録）
代表取締役社長　河岡 啓太郎

平生工場（山口県熊毛郡）

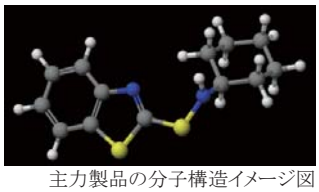
「世界に通用する企業」を目指す---この創業者の理念のもと、当社は、1949年（昭和24年）、山口県大島郡大島町に三新化学研究所として設立し、以来60年以上に亘って、有機ゴム薬品を中心とする化学薬品を製造・販売してまいりました。

風光明媚な瀬戸内海国立公園の一角に位置している当社は、現在、山口県柳井市周辺に、平生工場・柳井工場の2つの工場と、本社及び研究所を有しております。有機化学品という環境負荷の高い製品を生産・販売している事も充分認識し、環境負荷の低減を恒常的課題と位置付けて継続的に実施すると共に、創業当初から受け継がれてきた各事業所の緑化整備やボランティア活動を維持・発展させることにより、環境保全活動と企業活動を両立させ、地域と共存共栄型の会社を創りあげてきております。

近年、従来から培ってきたサルファーケミカルズの技術を活かすため、産、学、官とも積極的に交流し、液晶ディスプレイや高機能接着剤など、新素材分野において重要な添加剤とされる酸発生剤などの新規商品の開発も進み、当社における次代の商品の柱となりつつあります。

また、再資源化への取り組みの一環として、ゴム薬品の製造過程で発生する副生物の有効活用法の開拓にも長年取り組んでまいりましたが、アスファルトの改質に有効利用できることを見出し、製品名「サンハードRP」として、平成20年度山口県認定リサイクル製品の認定を受けました。

ISOへの取り組みとしては、2003年に、ISO9001:2000を認証取得、2006年にはISO14001:2004を認証取得（いずれも対象範囲は、平生工場、本社）し、2010年6月にISO9001:2008への移行に際し、2009年5月からはMIC殿による審査を受けております。


主力製品の分子構造イメージ図

▶http://www.sanshin-ci.co.jp/

CSR経営による社会貢献活動

株式会社筑波銀行（ISO14001:2004 認証登録）
総合企画部 審議室 シニアマネージャー　藤咲 正至

本部ビル（茨城県つくば市）

▶http://www.tsukubabank.co.jp/

株式会社筑波銀行は、「地域の皆様の信頼をもとに、存在感のある銀行を目指し、豊かな社会づくりに貢献します」という基本方針のもと、豊かな自然に恵まれた茨城県を主要基盤とする地方銀行として、環境保全活動をCSR（企業の社会的責任）の根幹と位置付け、企業活動が環境に与える影響を認識し、かけがえのない環境を未来に引き継ぐために、積極的かつ継続的に取り組みます。

この環境理念を実現させるため、当行は5つの重点施策を掲げ実践しています。

①環境負荷の軽減　②地域社会への貢献　③オフィス環境による負荷軽減　④全従業員が環境保全に配慮した行動の実践　⑤社会貢献活動

各項目の主要な取組として、

①環境省「チャレンジ25キャンペーン」への継続参加、茨城エコ事業所としての活動　②金融商品、情報の提供など本来業務を通じて、環境保全に取り組むお客さまを支援し、地域社会の環境改善に資することを目指す　③ISO14001の認証継続維持、クールビズ:ウォームビズの実施　④霞ヶ浦の自然再生への活動、地域の森林保全活動の実施　⑤公益信託による社会福祉施設および海外留学生への助成金、奨学金贈呈、各分野でのボランティア活動の実施

今後もCSR経営による社会貢献活動を積極的に推進して参ります。

ちょっと いっぷく

今回は本文内に登場するギネス世界記録について取り上げてみます。ギネスブックの名称で有名なこの本には様々な世界一が集められていますが、この本自体も著作権のある本としては史上最高のベストセラーとしてギネス世界記録に認定されています。

誕生のきっかけは単純な質問からでした。今から約60年前、アイルランドのビール会社、ギネス醸造所の当時の代表取締役、サー･ヒュー･ビーバーが狩りに出掛けた際に、「ヨーロッパで最も速く飛ぶ猟鳥は何か」で仲間と議論になり、なかなか答えが出なかったために、こういう疑問に答えられる本があれば評判になるに違いないと考えました。パブではこのような会話がいつも交わされていたからです。そして、ロンドンにある情報調査会社に世界一の記録を集めるよう依頼し、1955年に「ザ･ギネス･ブック･オブ･レコーズ（現在の『ギネス世界記録』）」が発行されました。初版は瞬く間にイギリスでベストセラーになったそうです。

日本でのギネス世界記録保持者には、みのもんたさん、B'z、イチロー選手、石川遼選手などの有名人やスポーツ選手など多数いらっしゃいます。また、人物だけではなく、企業、都市、建造物など様々なジャンルのものが認定されています。その後、発行元の関連会社は売却され、現在はカナダの会社で発行されているそうです。

同様に、異分野の会社が発行元として有名な本にフランスのタイヤメーカー、ミシュラン社が発行しているミシュランガイドがありますが、こちらはパリ万国博覧会が開催された1900年に、広まり始めたばかりのドライブ文化をより安全で楽しいものにしようと無料で配布されたのが始まりだそうです。直接関係ないようでいて、どちらも元を辿れば本業に結びついていて興味深いです。ちなみに東京は、ミシュランガイド東京2010で累計261個の星を獲得し、世界一ミシュランの星が多い都市としてギネス世界記録に認定されています。（参考：ギネス世界記録日本公式HP、Guinness World Records HP、日本ミシュランタイヤ公式HP）

研修コースのご案内

内部監査員研修コース

マネジメントシステムの維持・改善のために必須の内部監査。その知識とスキルを身に付けます。これから導入を予定されている企業や、既に導入され更に効果的な運用を目指される組織の皆様方にもお薦めです。

内部監査員コース　9001/14001/18001　（2日間）

【開催地】 東京・大阪・富山・金沢・名古屋・浜松・他

【対象者】
- ●品質/環境/労働安全衛生マネジメントシステムの導入を予定/検討している
- ●システムをより効果的に運用したい
- ●効果的な内部監査を行いたい

審査員研修コース

審査員への最初のステップです。合格すると、審査員補になる資格が得られます。内部監査リーダーの方にもお薦めです。

ISO9001 ：IRCA認定 審査員研修コース　（5日間）

ISO14001：IRCA認定 移行型審査員研修コース（3日間）

【開催地】 東京

【対象者】
- ●審査員の目で内部監査を行いたい
- ●内部監査グループのリーダーに任命された
- ●将来審査員を目指している

～ 受講生からのお便り ～

ISO9001：2008審査員研修コースを受講して

品質審査員コース（2011年4月）受講
株式会社ナイガイ
業務部チーフ、ISO＆WPコーディネーター　後井 万由美

弊社は、2005年に手袋の企画・製造・販売において、ISO9001:2000の認証を取得し、2010年には、ISO9001:2008にて継続しています。その過程で、文書審査、予備審査、初回審査、維持審査、更新審査を受ける側として経験してきました。この度、弊社社長の薦めで5日間の審査員研修コースを受講させて頂きました。

コースは、講師の先生2名により行われ、原則及び規格の解説、個別事例へのグループワーク、審査側と受審側に分かれてのロールプレイングなど、充実した内容で構成されていました。講師の先生は様々な具体例をあげて説明して下さり、またグループワークでは、グループメンバーや他のグループの発表から教わることが多く、視野が広がるのを感じました。毎日の宿題はコース内容をレビューすることに役立ち、"Accelerate Learning"を実感することができました。そして最終日の筆記試験を終え、受講を終了しました。

コースを振り返ってみると、あっという間で、規格に基づく審査の視点、審査プロセス、審査員の姿勢を、楽しみながら学ぶことができたと思います。学んだことは、社内において改善に役立てていきます。

最後になりましたが、講師の先生方、スタッフの皆様、他の受講生の皆様に感謝致します。ありがとうございました。

MOODY INTERNATIONAL
100 Years of Global Expertise and Local Presence

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社
http://www.moodygroup.co.jp/mic_index.htm

◇ 東京事務所 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2 日本橋Nビル4F　TEL：(03)3669-7408　FAX：(03)3669-7410
E-mail ： mi-certification@moodygroup.co.jp

◇ 大阪事務所 〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14 住友生命新大阪北ビル13F　TEL：(06)6150-0571　FAX：(06)6150-0575
E-mail：mic-osaka@moodygroup.co.jp